

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・少しずつ春めいてきて、暖かくなってきたことで入出が良くなってくる。卒業や入学、異動、ゴールデンウィークなどもあるので、きめ細かく対応すれば数字が拾えるとみている。
	やや良くなる	スナック（経営者）	・月末になってようやく予約の動きが良くなってきている。歓送迎会が昨年より早めに動き出しているようである。
		観光型ホテル（スタッフ） 都市型ホテル（支配人）	・予約状況が多少上向きの状態で、来客数が若干増加傾向にある。 ・水戸の梅祭りが始まったので、梅を見に来る客が増える。また、歓送迎会の予約が大分入ってきており、上向きになってくる。
変わらない		百貨店（販売促進担当）	・当店を含め、小売関連の新聞折込チラシはどれも価格訴求がメインになっており、商圏的に見ても厳しい状況がうかがえる。原油高に端を発する生活品の値上げ等の影響は深刻で、今後消費マインドが向上する要因が見当たらないことから、厳しい状況は続く。
		百貨店（販売促進担当）	・アパレル関係でヒット商品が不在であることに加え、食品、食材等の値上げで、客の衣料品への購買意欲が薄れてきている。
		スーパー（総務担当）	・現状、大きなセールを行えば、来客数、売上共に上がるが、単価が下がり、販売点数が追いついていないという状況がずっと続いているので、やはり見通しは良くない。
		コンビニ（店長）	・各種の商品値上げが続くと思うが、既に客が商品を買う態度はかなり悪い状況になっているので、これ以上悪くなることはない。現在ひな祭りイベント等で外部から町に来る人が増えているが、物販にはまるで結び付いていない。
		衣料品専門店（経営者）	・燃料費、原材料費の高騰による商品価格への転嫁が春から本格化することについて、一般消費者の警戒感が増大しており、これが購買力を低下させるとみている。
		衣料品専門店（店長）	・行楽シーズンに向かっての需要に期待はしているものの、生活必需品の高止まり感によってファッション衣料の動きは悪い。
		衣料品専門店（統括）	・厳しい状態である。今月もまた商店街の中の1軒、創業70年の布団屋がシャッターを閉めてしまった。地方では客の消費意欲が本当にわいてこないのかということが非常に心配されるが、まだまだ厳しい時期が続く。
		家電量販店（店長）	・オリンピック効果で、若干販売量も増えると思えるが、大幅に改善されるようなところまではいかない。
		乗用車販売店（従業員）	・総需要が減少していることに加え、ガソリン値上げ等の悪影響が重なり、高級車はもとより中級車、小型車の販売にまで影響している。今後もこの状況はしばらく続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・例年、卒業や就職シーズンは景気のおしあしにかかわらず、それ相応の新車、中古車の台数が出たが、今年に入ってから、1、2月共に販売台数が全く伸びない。これから良い要素が出てくれば良いが、何も出てこないの、このまま悪い状況が続く。
		住関連専門店（仕入担当）	・商品価格の高騰は今後も続き、ますます販売数の低下が予測される。
		スナック（経営者）	・物価が上昇しているのに、給料が変わらず、ましてや下がるという状態なので、客が遠のいている。
		ゴルフ場（従業員）	・来客数の動きは若干上向きに転じているが、競合店の関係もあり単価がかなり厳しくなっているので、全体的に見ると変わらない。
		ゴルフ場（支配人）	・まだ雪の降る可能性は十分残っている。できる限り人件費、経費の削減等を行いつつ運営をしているが、いまだ客単価上昇も望めず、大変厳しい状態が続く。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・レジャーや娯楽などを安く近く短く、という傾向があるなかで、当店のようなアミューズメントパーク、インターネットカフェは比較的に有利である。そのため、大きく下がることはないが、あまり回復するという兆しもないので、今のままの状態が続く。
美容室（経営者）	・3月は卒業式などの行事である程度期待できるが、子供の数が減りその親の絶対数が減少しているの、かつてのような伸びは期待できない。少子化の影響は美容業にも押し寄せている。		

	設計事務所（経営者）	・確認申請の関係で、工期の延長が避けられないなど、今までまじめに申請をしてきた業者には大変厳しい状況である。
	設計事務所（所長）	・今月見積依頼のあった件数がそのまま受注につながれば、しばらく安定する。決算月ということもあり、1件でも多く受注できるよう努力したい。
	住宅販売会社（経営者）	・地方は世間でいわれているほど好景気ではなく、地域格差が広がっているように感じている。起爆剤になるような政策が発表されない限り、今の状況を打破できない。
	住宅販売会社（従業員）	・現場見学会等への来場者は増えてきているが、なかなか販売に結び付いていかない状態が続いている。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・原油高による各材料等の値上げが非常に激しく、当店で扱っている入学用品等の値上がりも激しくなっている。今後、一般消費者の財布のひもは現在より固くなる。
	商店街（代表者）	・食品を中心に値上げ商品が増えてきている。また包装資材が異常に高騰しており、今後の不安である。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	・消費者に衝動買いがなくなっており、特に大型家電購入に関しては慎重さが見られる。量販店のチラシ等から価格はまだ下がるという意識もあるようだが、必要に応じての購入なので、季節商材の動きが出るまでは厳しい状況である。
	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・3月から商品の値上げがあるので、販売量の減少が予想される。
	百貨店（総務担当）	・製品の値上げにより、生活費が圧迫され、衣料品などすべての商品が影響する。3月からは一般の売上は思わしくないと考えている。
	スーパー（販売促進担当）	・1人当たりの買上点数、単価共に若干前年を割っている。全体的に所得が増える見込みがなく、物価の値上がりが続くなか、生活防衛のため、厳しい状況は続く。
	スーパー（統括）	・原材料の値上がりによる商品原価の値上げがメーカー各社より相次いで出されたが、特売価格の展開でほぼ現状を維持している。実質的な値上がりは、3月以降本格化すると予測されることから、必然的に消費者の買物の仕方は少しずつ変化する。中国産品への不振感も払しょくできていないため、消費意欲の減退は避けられない情勢である。
	一般レストラン（経営者）	・夜飲む客などが若干単価を下げて飲んでいる。客が控えているので、景気はなかなか良くならない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊ではネット関係が3割近く増えているが、代理店からの予約は1割にも満たない状況にある。新規ホテルがまたオープンするので、一時的に安価なホテルに宿泊客が移るのではないかと危惧しており、対策を模索中である。
	旅行代理店（支店長）	・2～3か月後は新年度を迎えた後で、なかなか動かない時期となる。また、今の販売状況からみても客の反応が鈍い。
	旅行代理店（副支店長）	・燃油高騰のあおりが長引く可能性がある。海外旅行については、中国渡航者の減少が加速する。
	タクシー運転手	・原油高が収まらず、物価高騰感から一般消費が停滞する。
	通信会社（営業担当）	・耐震偽装問題の余波で建築申請が厳しくなり、物件の動きが鈍くなっているため、少なからず契約件数に影響が出てきている。また、集合住宅の新入居も動きが少ない。
	競輪場（職員）	・前年度と同じような大会の売上が10%以上減少している。
	設計事務所（所長）	・建築基準法改正の影響顕在化は今が始まりで、今後じわじわと影響が拡大していく。
悪くなる	商店街（代表者）	・年度末で役所などからまとまった見積依頼が来る時期であるが、今年は全くその様子がない。郊外大型店の売場は増えても、町中の商店は店じまいが目立つ。商店街の空き店舗はますます増えており、良くなる要素は見つからない。
	一般小売店〔衣料〕（経営者）	・真冬の寒い日が続き、昨年は降らなかった雪が3、4回降っても、防寒衣料等の販売が特に伸びるということはないので、先行きが良くなるようには感じられない。
	コンビニ（店長）	・昨年から続く食品偽装の問題が消費者の財布のひもをますます固くして、買い渋りがどんどん広がっていく。今年度もまた偽商品、偽ラベルの商品が出回るのではないかと。特に中国産の冷凍食品の問題もあるので、消費者の財布のひもはますます固くなり購買力が衰えるので、悪くなる。
	衣料品専門店（販売担当）	・原油高に始まって、関連商品すべての値上がりが続いており、家庭の内側、末端にまで打撃を与え、相当な影響を及ぼしてきており、消費活動はかなり冷え込んできている。
	住関連専門店（店長）	・客の購入量は低下している。周りの製造業等も労働時間の短縮などを行っているようであり、今後サブプライムローン問題も含め、半年は景気は回復しない。

		一般レストラン（経営者） 観光名所（職員） 美容室（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンを始め、営業していく上でのすべての物が値上がり傾向にあり、業者、消費者共に不安定な状況にある。</li> <li>・当社は別荘の販売、管理を行っているが、景気は順調とは言いながらも、個人消費については高額物件が売れないという状況で、むしろ悪くなっている。</li> <li>・昨年は美容専門学校の入学辞退者はほとんどいなかったが、今年は入学が決まった時点で3人くらい入学金が払えない状況になっている。昨年に比べ景気が非常に悪い方向に向かっていていると感じている。</li> </ul>
企業 動向 関連	良くなる	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・受注を期待している商品が装置であり、少人数で開発、製造、直売、設置、直接リース、メンテナンスまで全部行っているで忙しくなる。
	やや良くなる	一般機械器具製造業（生産管理担当）	・既存の仕事は底堅く推移しており、新規案件も幾つか抱えている状況である。自動車向け新規案件の立ち上げが5月に確定しており、期待している。
	変わらない	食料品製造業（営業統括）	・国産甲州ワインの輸出が最近話題になっているが、業界全体をけん引するほどの影響は見られず、来場者数の減少、資材費の高騰等、経営に与える要因は悪化する傾向にある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・新商品発売によるネット上での受注及びネットを通じてのオーダー作品の注文、また、材料等のオークション販売に幾らか明るい兆しが出てきている。
		金属製品製造業（経営者）	・当業界でも4月から鋼材、特に鉄板類が30～40%の値上げと言われている。これが現実となると、企業努力、合理化ではなかなか吸収が難しく、景況感は非常に難しい状態である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・4月以降は建設機械の部品が多少増加する予定であるが、自動車関連がその分だけ減少するので作業量は変わらない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・物件が少なく、価格競争が非常に厳しくなっており、なかなか受注に結び付かない。
	輸送業（営業担当）	・季節的に新生活商品関連の荷動きは良く、前年より物量は増加しているが、燃料価格の高騰が利益を圧迫しているため、しばらくは厳しい状況が進む。	
経営コンサルタント	・原料、燃料や資材等の調達環境の悪化、諸物価、諸資源価格などの上昇、高止まり傾向が続くなか、個人消費も企業投資も先行き大きな回復は見込めそうになく、様子見の状態である。		
やや悪くなる	化学工業（経営者）	・石油関連の原材料だけでなく、輸入の鉄鋼、コークス等の影響が4月以降確実に出てくる。製品の値上げに踏み切らなくてはならないが、それに費やすエネルギーは大変なものであり、値上げ後しばらくは買い控えが起きることを考えると、夏までは苦しい。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・継続的な仕事が全くなくなり、短期間の仕事もほとんど取れなくなってきているので、非常に心配である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・昨年の1～3月と今年の同時期を比較すると、売上ベースで1割弱くらいの減少である。原材料の高騰で大分苦しんでいる。	
	金融業（経営企画担当）	・原材料費、諸物価高騰や米経済変動による円高進行で、製造業を中心に厳しい局面を迎えることが予想される。	
	金融業（総務担当）	・経常利益確保のために、何とか3月一杯まで価格据置きをお願いしているところもあるが、4月以降の値上がりは確実なため、経費支出が増加し、厳しい状況になる。	
	広告代理店（営業担当）	・広告の受注状況は厳しい。昨年までの「グロス」で受注して、1回の出稿単価を下げるという対応にも、限界がきている。薄利小売の状況では利益を確保することが難しい。もちろん、クライアントが仕入の高騰による企業努力に限界を感じているのも理解できるので、ここしばらくは耐えるしかない。	
悪くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・ここにきて、また原材料高、その他の値上がり攻勢が強くなり、その分を価格転嫁できない状況である。3月以降についてはメーカーのコストダウン要請も強まってきているので、収益状況については全く見通しが立ちにくい状況になってきている。	
	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者） 建設業（総務担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地金の高騰は収まっていない。展示会でも株値の低迷は高額品の購買力を奪っている。</li> <li>・道路特定財源が取りざたされているが、なくなった場合、公共工事に与える影響は大きく、今の状態での企業の存続は無理である。</li> </ul>	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-

変わらない	求人情報誌製作会社 (経営者)	・アウトレットのテナントが20店舗ほど増えるため、3月末に合同面接を企画している。また、初夏にオープンする2万坪ほどのホームセンターが工事に入り、テナントを募集しているので、4～5か月先になると雇用も上昇に入ると期待している。
	職業安定所(職員)	・原油高の求人への影響については特に見受けられず、また、求人数が大幅に増加するような要因がないため、このままの水準で推移していく。
	職業安定所(職員)	・原材料の高騰などが不安要因となり、求人意欲を抑えているように思われる。零細企業の倒産も見られ、業種間、企業間での景況格差が広がっている。
	学校[短期大学](就職担当)	・多くの企業では、09年度の採用活動が本格始動しており、採用試験等は昨年と比べ前倒し傾向にある。短大生にとっては意識と準備が伴わないまま活動を迫られている実情がある。今春卒業予定の活動も思ったような求人が出ず、苦勞しそうな気配である。
やや悪くなる	人材派遣会社(経営者)	・大手企業の賃金が安く、仕事は忙しくなったり暇になったりばらばらで安定していない。
	職業安定所(職員)	・新規求人数が前年同月に比べ減少している。特に主要産業である製造業の求人が減少している。
	民間職業紹介機関(経営者)	・製造業において、液晶関連装置の受注に明るさが戻ってきているが、半導体関連にかげりが見られる大手企業もあり、急激な落ち込みはないものの、全体として明るさが見られない。
悪くなる	人材派遣会社(社員)	・人材を現場に入れて毎日働いてもらう業態なので、比較的毎月の売上見込みが付くが、受注状況を考えると、4月以降仕事がなくなるところが幾つかあり、新規の業務獲得が追い付いていない状況であることから、前年比ではかなりのマイナスとなる。